

第3回高知県産業振興計画フォローアップ委員会

◇日 時：平成24年1月24日（火）14：00～17：00

◇場 所：高知サンライズホテル「向陽」

◇出席者：別紙のとおり

◇事務局：知事、副知事、産業振興推進部長、理事（高知県産業振興センター）、商工労働部長、観光振興部長、農業振興部長、林業振興・環境部長、水産振興部長、各地域産業振興監 ほか

1 開会

2 知事挨拶

皆様方、あけましておめでとうございます。また、本日は第3回産業振興計画フォローアップ委員会にご出席を賜りまして、本当にどうもありがとうございます。

この産業振興計画については、4月から新しく第2期高知県産業振興計画へとバージョンアップをさせてまいりたいと考えておるところです。昨年の第2回産業振興計画フォローアップ委員会でも申し上げましたが、この第2期の計画に向けて、おおまかに申し上げれば、今まで続けてきました1次産業を基軸としていながら、その関連産業へのウィングを広げていくという取り組み、さらに加工分野におけるものづくりの地産地消の取り組み、そして地産外商の取り組み、これらの一連の取り組みについて、この4年間で整ってきた仕組みを縦横に生かしながら、より大きな雇用、より大きな動きとなるように、この取り組みをしっかりと定着、発展させていくという方向を第一に目指していきたいと考えています。

加えて、第2期にあたっては、より大きな産業に対しプラスの影響を及ぼしていくためにも、より大きな産業化に向け取り組んでいきたいと考えています。県内企業への投資誘発策をしっかりと講じていくということ、そしてこれから強みとなりそうな新エネルギー関連産業や、さらには防災関連産業など、雇用を創出する産業の重点育成を図ってまいりたい。これらの取り組みを通じてより大きな産業の育成にチャレンジしていきたいと考えています。

そして、3点目の柱といたしまして、この産業振興の取り組みにより多くの皆様方にご参画いただくように、ウィングを広げていくための取り組みをぜひ進めていきたいと考えています。特に、中山間対策の抜本強化は県政全体としての焦眉の急であります。この中山間対策の抜本強化と連動していく形で、地域地域においてささやかであったとしても、新しい歩みが生み出されていくような、そういう取り組みを県内に広げていくことをぜひ行っていきたいと考えています。全体として、この土台が広がっていくような取り組みを行っていきながら、今までの中核であったものをより大きく、太く上に上げていく。さらには頂きを目指していくような新しい産業化の取り組みにもチャレンジをしていく。大きな富士山を形づくっていくような方向での取り組みというのをぜひ、進めていきたいと考えているところです。

そういうことを進めていく中で、第2期計画においては、第1期計画よりも特にこの点に留意して取り組みを進めたいと考えておる点がございます。官民協働、そして市町村の皆様方との協働、この点が非常に重要だと考えています。実行段階になればなるほど、多くの方々と手を組んでともに進んでいくということが重要になってくるかと思えます。

民間の皆様方により一層、我々県庁もご指導いただかないといけません。市町村職員の皆様方ともより一層手を携えていくということが非常に重要になってくるかと考えているところです。そういうことを成し遂げるためにも大事なこととして、それぞれの施策で、また全体として何を指そうとしているか、その成功イメージや、もっと言えばアウトカム目標ということにもなるかと思えますし、時にビジョンというふうに関連してくるものも出てくるか考えておりますが、これをできる限り、分かりやすくかつ明確に掲げて政策に取り組んでいくということが非常に重要ではないかと考えています。

最終的に何を指そうとしているのかということを確認をしていく、そのことによって多くの皆さんと目的を共有することができる。だからともに取り組むことができる方向に持っていければと思います。また、我々行政

といたしましても、往々に陥りがちな個々の施策のアウトプット目標の充足でもって満足してしまうということに留まることなく、最終結果を目指していく姿勢を徹底していくためにも、アウトカム目標となり得る成功イメージを掲げていくということが非常に重要ではないかと考えているところです。

そういう思いで、昨年、私が2期目の当選をさせていただきまして以来、県庁職員と共に一緒に11月、12月、この1月の今日まで新しい計画のバージョンアップに向けていろいろ検討を重ねてまいりました。まだまだ途中段階ではありますが、一定のたたき台を本日このフォローアップ委員会でお示しをさせていただきたいと考えています。既に、専門部会でいろいろとご議論を賜ってまいりました。また、本日このフォローアップ委員会で大所高所から、また専門的なご見地からさまざまなご指導をいただきたいと考えております。

今後、この第2期産業振興計画について、パブリックコメントもかけることを予定しています。今日、委員の方々にご意見を賜り、そのお知恵を生かさせていただき、また、パブリックコメントでお知恵をいただき、今後に生かさせていただく形で進めてまいりたいと考えています。そういう意味において、本日ご意見をいただくと共に、また、今後、継続的に3月の末日を予定しております第2期計画の完成までの間、いろんな形でご指導いただければと考えておる次第でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、本日3時間という長丁場となりますが、よろしくお願い申し上げます。

3 議事

○ 第2期高知県産業振興計画について

- (1) 第2期高知県産業振興計画の策定方針等（案）について
- (2) 高知県産業振興計画の推進によって実現を目指す本県産業の姿<全体>（案）について
《産業振興推進部長から説明 資料1、2》
- (3) 高知県産業振興計画の推進によって実現を目指す本県産業の姿<各分野>（案）について
《農業振興部、農業振興部、林業振興・環境部、水産振興部、商工労働部、観光振興部、産業振興推進部から説明》

【知事】（資料の見方説明）

- ・後々のご議論をスムーズにさせるため、通常と少し違う資料なので、少しだけ表の見方の説明をさせていただく。例えば、林業分野では、一番右側に10年後の目指す姿を書いている。山で若者が働く、全国トップ3の国産材産地という1つのイメージが究極の成功イメージとなる。それを表す具体の資料として、原木生産量65万m³を掲げているが、それぞれ原木生産から流通・販売、木質バイオマスまで黄色いボックスで個別の10年後の目指す姿をより具体の姿として書いている。
- ・左側に4年後の目標があるが、10年後、ここまで目指していく中でも4年後には少なくともここまで到達をしておこうという到達目標が、この4年後の目標ということになる。
- ・第2期計画の取り組みの欄がその左にあり、平成24年から27年のそれぞれ具体の施策を書いているが、この具体の施策の部分は5W1Hを明確にさせて、第2期計画に落とし込むということになっている。そして、特に平成24年度分については、具体の予算措置を講じるということで、現在、予算編成を行っているところである。第2期計画の取り組みというのは、参考1-2の中に5W1Hがそれぞれ折り込まれている従来型の計画になり、その概要の具体論を書かせていただいているが、こういう形でもっと具体的に5W1Hがはっきりしているという内容になっている。
- ・この4年後の目標から10年後の目指す姿の間にさらなる飛躍へのポイントと書いてある部分があり、単板工場の誘致など現段階で想定されることをいろいろ書いてあるが、もう1段大きくなっていくために、この部分をクリアにしていくことが必要だろうと考えている。この部分の熟度はそれぞれで、既に仕込みを始めているもの、取り組みを始めているものもある。先ほどいった高収量の園芸ハウスなどは、農業技術センターでの研究を開始したものもあり、若しくは、これから考えていかなければならないものもある。
- ・いずれにしてもさらなる飛躍へのポイントは、この4年間5W1Hに基づいた左側の取り組みを進めながら、併せてこの飛躍に向けて仕込みや、検討、具体的に施策として講じていくことになる。それによって、4年

の間にさらなる飛躍への体制を整え 10 年後に備えるという構成で、この絵はできております。

※意見交換概要

【A委員】

- ・ 今回の特徴として、10 年後の目指すべき姿を示しているが、前回、この席で G 委員から、長期の目標が必要ではないかというお話があり、また土佐経済同友会の方でも 10 年ビジョンという中期的な目標が必要ではないかということを提言させていただいた。
- ・ それを踏まえて、短期的な P D C A サイクルだけではなく、中期的な目標を掲げており、この方向で進めていただければと思う。
- ・ 長い目で見た場合に、新しい産業づくりに挑戦というところは大きな柱として必要になると思うので、これが加わったことも非常に適切。

【B委員】

- ・ 第 2 期計画という形になると 1 期を引きずってしまうリスクがあり、引っ張っていく意味で 4 年後の目標、10 年後の目指す姿を県民と共有する、県民に対する県政の約束として計画が示されることは非常に意味がある。
- ・ そのうえで、先週お示しいただいた資料と今日いただいた資料で若干変わっているところがあり、いい方向に変わったと思っている。
- ・ 全体に市場なりが右肩下がりにになっているときの目標の立て方、比率目標ではなくてグロスの数値目標を立て、なおかつ、分野ごとのそれぞれの指標と全体目標がどこかで整合性を持たせる格好に持っていかなければいけない。
- ・ 分野ごとに特徴がある形で個別の目標を立てることは、水面下で通底するものがないと、産業振興計画の県政全体とのバランスという点でも齟齬が出てくる可能性がある。

【知事】

- ・ ご指摘いただいた通り、まさにそこを苦労しており、比率目標ではなくできるだけグロスの目標の方がよいと思うし、割り算をするのではなく、実値単位で見える形の方がよいと思う。
- ・ 生産、流通・販売を増やすなら販売面でもこれだけ増えている形になっていないと、両者の実現可能性が成り立たないと思う。その整合性、さらにはそれぞれの分野における出荷額の増が、例えば、製造品出荷額増に全体としてつながるかどうかという意味で整合性などをいろいろ議論してきたが、まだ足りない部分もある。
- ・ 申し訳ないが、まだまだ検討を重ねている段階。ただ、今のご指摘は全く方向観としてもその通りと思っており、引き続き検討を深める。

【C委員】

- ・ すばらしい方向づけができ始めており、今ある高知の特性を生かした産業振興計画のプランニングはかなりできたと思う。
- ・ 先週の土曜日、某大学の総会で「5 年ぐらいのスパンで見た現代企業を鳥観的に見た成功企業群」という講演があった。簡単に言えば、①東南アジアの輸入・輸出、または現地のビジネスを展開する企業、②ユニクロやニトリに代表されるような企業、また、IT 分野で携帯のキャリアに代表される企業、同時に食のランキング等々の IT ソフトを活用している企業群、③バイオで武田に代表されるような企業群、④エネルギー分野だが、エネルギーを単純に運用するのではなくて、高付加価値化に成功をしている企業群の 4 つの企業群。加えて、総合商社、この 5 年ぐらいで川上から川下まで統合した総合商社があり、大変伸びている。利益リスト、経常利益リスト、経常利益額の絶対額をポジショニングしたもので、明快に勝っている分野が鮮明にわかる。

- ・高知の特性を意識したものはできたが、新たな産業づくりに挑戦をする部分を意識していないと、世界の潮流の中で勝っているところが少し抜けているように思う。やはりそこも意識すべき課題ではないかと思う。

【知事】

- ・ご指摘の通りだと思う。そういう視点からここを越えられないかなど、よく考えてみたい。大きい仕組み、仕掛けを考え、大きな時代の流れを見て、それに沿った形で考えたいと思う。
- ・一応、新エネは、強みを生かした流れがあり、例えば、バイオもいろんな展開ができてきているようなので、ぜひ進めていきたい。
- ・ITのキャリアは難しいが、他方コンテンツ産業でもソーシャルゲームの第一歩が踏み出され、これから売りに当たってITの活用、観光に当たってITの活用などという視点をいれるなど、もう一段骨太なところをぜひ考えたいと思う。
- ・ちなみに、防災関連産業といったカテゴリーは多分ないと思う。これは一種の造語だと思うが、こういう目の付け方も一つあるのではないかと思っている。南海地震対策を進める本県としては、実質的にクリアに像が浮かんでくる。恐らく県外でも、一つの伸びしろではないかと思っており、ここは独自の視点で骨太なものとして入れ込んでいくと考えてる。
- ・ただ、さきほどのご指摘の点はおっしゃる通りだと思うので、もう一段骨太な視点で中身をブラッシュアップするときに生かしていきたい。

【D委員】

- ・私も実はC委員とよく似たことを感じており、この計画自身はビジョンを示してすばらしいものだと思う。長期ビジョン、それに対しての解決策、超短期的なもの、全部ちりばめられている。
- ・普通の企業でいうと、第2期は第2創業というようなとらえ方をする。視点として今の高知県のいろんな産業のポートフォリオを1回整理する考え方が必要と思っている。各産業分野ではそれぞれ、横軸に高知県の特徴とか強みとか、普通の企業でいう場合のシェアという形になるかもしれないが、産業の対象の市場の魅力度みたいなもので、ある意味で全体的な成長性みたいなものを示す。
- ・その中でそれぞれがどんな位置づけにあるかを整理し、個々の産業振興と同時に、産業振興計画の全体の方向性の中でも、特にこの資料2の絵の中のこれまでの取り組みの定着が、ポートフォリオにどのように位置付けられており、どの領域のものを伸ばしていくかという視点が入ってくると、非常に明確になってくる気がする。

【知事】

- ・そのような視点でも分析してみる。SWOT分析ももう1回やっているが、ご指摘のように分野分野で見ることも重要であり、分野全体としてのポートフォリオを考えることも必要になると思う。
- ・県の計画なので、ポートフォリオ上、こっちは切り捨て、こっちに移るといってはならないが、組み合わせることで全体を生かしながら他にウエイトをかけることはできると思う。
- ・防災産業は食品から機械、土木までいろいろな関連があり、先生の言われた視点も生かして検討を深める。

【委員長】

- ・ありがとうございます。これだけ分野も広くなり、表現方法も含めて考えていけないといけない。例えば、資料2も山を側面から見ているが、真上から見た絵といったお話にもつながっていくと感じた。
- ・全体像、計画自体の策定方針に関してはご賛同いただいたかと思う。続いて計画全体を貫く数値目標についてご意見いただきたい。

【A委員】

- ・先ほどから出ている、ポートフォリオや新しい産業の大きな核となるものが必要という意見に関連して、資

料2では医療・介護分野が大きく欠けているのではないかという気がする。

- ・高知県は高齢化先進県であり、産業として医療・介護は就業者数にしろ、設備投資にしろ、現時点でも大きな産業になっているし、全国と比べても高いレベルである。これを大きく伸ばしていかないといけない。
- ・日本一の長寿県構想の関連だけではなく中心市街地の設備投資にもつながっているし、あるいは観光ともつながり得るものであり、産業として介護・医療分野をもう少し明確に位置づけていくべきではないかと思う。
- ・また、産業振興計画の進め方ともつながってくるが、専門部会の構成として医療・介護分野や、エネルギー分野、防災分野などの専門部会も置いて、そこから意見が集約される。知事から話があったように、防災という今までにない分野なので、いろんな業種が入ってくるはずであるし、医療・介護も在宅医療が中心になってくれば、いろんなサービスや消費分野などとの関連が必要になってくる。
- ・例えば、建設業からの転換も増えてくると思うし、新しいグルーピングで意見を吸い上げる体制なども必要になってくると思う。
- ・また、計画の数値目標の4案は、この中で成長率や有効求人倍率は景気循環の影響を受けやすいので、県の構造的な面を考えると、県際収支の面と人口の動向が目標としては適切と思う。
- ・先ほどB委員から話があったように、全体と個々の産業生産性とも関連するが、例えば、県際収支については、県の人口と同じペースで県内市場とか住宅市場が単純に縮小していくとすれば、どのくらいGDPが落ちてくるかは産業連関表から計算できるので、それをカバーするためにはどれだけ県外収支でカバーしないといけないか、ある種の目標が出てくると思う。その目標を各産業へウエイトづけし、どの産業がどのくらい頑張らないといけないかなど、大まかな数字のつくり方ができるのではないか。おそらく横ばいはなかなか難しいと思うので、縮小を半分に抑えるなどの目標の中で、それぞれの産業の産出額をどのくらい増やしていかないといけないか、逆算的にアプローチできるのではないかと思う。

【知事】

- ・今の計算方法はなるほどと思った。それやっていくと、D委員のおっしゃったポートフォリオにもつながっていく。一つの指針として、計算の仕方をまた教えていただきたい。
- ・(目標数値の)3と4を重視して考えさせていただきたいと思う。月1回の経済の勉強会の中で出てくる総報酬額などにも関係してくるのかもしれないと思い勉強しているが、そういう数字面などをご教示いただきたい。
- ・保健・医療・福祉の分野については、産業振興計画に取り上げていないが、有力な産業と思う。県としては、この分野は日本一の健康長寿県構想で基本的に対応していくため、産業化を前面に押し出してはいるが、この分野の需要が伸びていく構図がある中で、供給体制をいかに明確に整えていくか、両建てで太らせていく一つの道と思っている。基本的には県民の太りゆくニーズに対して、どのように供給体制を整えていくかという切り口から見れば、日本一の健康長寿県構想でやることになる。
- ・長寿県構想は県民一人一人の健康を守ることを前面に掲げているが、事実上、長寿県構想の取り組みは産業振興に大いに資するものと思っている。実際、雇用が生まれているものは数値にしているもので、そういうことをご理解いただきたい。
- ・土佐経済同友会をはじめ、いろんな方々と意見交換する中で、長寿県構想に関連する部分を意見交換をさせていただきたいと思っている。産業振興計画に直接的に関わる部分として、移住促進などのあり方や、健康産業として、例えば、機械や誤嚥をしない食品などをつくることなどは当然あると思っている。ただし、基本的な施設型サービスや、基本的な健康サービスの根本的な部分での提供体制、医療の提供体制は長寿県構想のカバーする分野と思っている。

【E委員】

- ・健康や介護の関係について、知事のご説明も伺い納得した。また、医療・介護の関係の周辺サービスも結構、雇用拡大等に大きなウエイトが占められているので、健康長寿県づくりの中で考えていただければと思う。
- ・ものづくり関係でもあったが、新しい分野の創業で、新エネルギー関連産業や防災関連産業など、かなり広

めのスポークで見られているので、こういうものをどんどん進めていただければと思う。

【F委員】

- ・計画全体の目標は、A委員のご指摘に共感する。各分野の数値目標を、とりわけ商工業、農業で生産額を挙げているが、かつて製造品出荷額が7,000億あり、農業も1,000億超えていたが、そのときは高知の経済や雇用が好調であった。
- ・例えば、今高知の倍以上ある島根や鳥取が模範的であり、人口、あるいは事業所、従業者当たりで割ってみて、場合によると全国のランキングなども出し、どう上げていくかというような出し方や、これらの各分野の目標の結果として県民所得、もしくは世帯収入、実収入、雇用者数とかいったものが10年後にこのぐらい上げていくべきなどの見せ方の方が県民の皆さんと共有する観点からも望ましいのではないかと思います。

【B委員】

- ・数値目標の考え方と各分野と全体との関連に関し、E委員のご指摘と同じように考えていたので、ちょっとお話しさせていただく。そもそも県政として産業振興施策を取り組むことは、その産業が県民の生業であり、そこから得る収入によって生活を立てるところにある。それぞれの産業ごとに携わる人が何人いて、その人たちがどのくらいの収入を得て、いくら所得で県内で消費活動を行い、県全体の経済にかかわっていくところに、産業振興政策の目標が出されるべきと思う。
- ・であるならば、分野ごとに例えば、担い手では、個々の分野ごとの計画に関して、参入・退出する両方がある中でそれぞれの担い手が長期的にどの程度になり、収入額等がどれぐらい増えるかなど、目標の立て方という意味ではトータルとして全体目標がどうなるかを見なければならぬ。
- ・また、各分野間の関係性について、製造品出荷額や農業生産額など、先週資料をもらって目標にされている過去の数値等を見たところ、例えば、製造品出荷額で一昨年4,608億が平成7年のピークで7,055億だった。このとき、実は食料品の製造品出荷額は一昨年が726億円に対して、先ほどピークの平成19年788億と紹介されたが、平成7年時点でも722億あり、逆に言うとほぼ横ばいと言ってもいい。
- ・全体が7,000から4,600に減った中で食料品は横ばいになっており、減ったものが何か見れば、何に期待をかけるべきか、何に依存すれば間違えるのかということが見えてくると思う。
- ・その観点で、そのときに食品製造業が1,000億としたら、後、どれぐらい稼ぐ必要があるかを見ざるを得ないし、域内収支を減らそうというときに、取りこぼしている食品加工分野をもう一回持ってくるということで、どの程度、域内収支のバランスが改善するかということも関連してくる。
- ・また、農業生産額で言うと、1,000億は前年の平成20年は1,026億あり、逆に担い手が全体的に減少し、なおかつ、その園芸作物などによって生産品の構成が変わっていく中で、1,000億を4年後に実現することがどういう意味合いがあるのか、加工分野にも絡んでくる話なので整合性を考えると、そのような思考作業が必要になってくると考えた。

【知事】

- ・そのところを、それぞれ横串、縦串で詰めていくことを不断に繰り返さしていきたいと思う。
- ・国と違い、産業連関表にしても完全に計算し切ることができないので一定の限界はある。むしろ、963に対して1,000とか切りのいい数字の方が分かりやすい、ということもある。また、1割増が分かりやすいなどということもあつたりするので、両方の兼ね合いから設定している。
- ・ただし、最後の最後で心配なのは、やってもインパクト不足にならないよう、大いに意を配さないといけないと思っている。
- ・高知県のGDPが約2兆2,800億円であるので、200億円増えると大体1%に相当する。500億円は大体名目GDPの2%相当ぐらいある。「龍馬伝」の効果は一定効いてきていると思う。生涯獲得所得や有効求人倍率、業況判断指数などを見るとクッと伸びている。21年が一番底だと思うが、22ぐらいからクッと伸びており、そういう形で効いてきているのではないかと一定仮説を持っている。

- ・やはり1%、2%相当のインパクトを持てば、一般経済全体に、懐を豊かにする形で効いてくると考えており、そのような意味で、例えば10年後に食料品製造業で800が1,000になる。これはグロスの生産量だが、一定規模の数字になるのではないか。
- ・750億円産業である観光を1,100億円で約400億円プラスに持ってくるのは、一定のインパクトを持つ数字じゃないかと思っている。
- ・縦、横、斜めの整合性やこれだけ人が増えるということは生産量の実現に資するような観点とともに、全体としてアウトカムが、究極のアウトカムであり県民一人一人を今より豊かにするような、若者が残って暮らせる高知県をつくる究極のアウトカムに資するほどのインパクトを持つか、検証を重ねながら進めたいと思う。
- ・ざっくり言えばインパクトを持つようなレベルになっていると思っている。ただし、非常に重要な視点であると思うので、まだ時間かけて考えたいと思う。

【D委員】

- ・10年後の成功イメージの、「地産外商が進み、地域地域で若者が誇りと志を持って働く高知県」、これは非常にすばらしいと思う。ご存じの通り、ブータンにしろレガタムにしろ、あるいはハッピー・プラネット・インデックスなどいろいろな形での指数が提示されている。
- ・若干冗談みたいになってしまうかもしれないが、例えば、いろんなアウトカムの最終的なインパクトとして、「地産外商が進み、地域地域で若者が誇りと志を持っている高知県と認識する県民の割合が●●%」を目指すという目標を上げたらどうなるか。

【委員長】

- ・1つの例をお示しいただいた。この話は非常にタイムリーで、今日、高知新聞に取り上げられていたが、A委員から県民幸福度指数、グロス・ナショナル・ハピネスに相当するお話があったが、そういうところにもつながっていく一つの指標だと思う。
- ・その物差しをどうするか、こういう意見を持っておられる方もたくさんいると思うが、全く定量的な経済指標に対して、全く違う視点になるので、このような意見に対し知事からコメントいただければと思う。

【知事】

- ・GKHやGNHの議論などいろいろいただいております、大いに賛同するところがある。おそらく防災の面や、長寿県構想の面、産業振興の面など、いろんなものを組み合わせてできあがる指標になるのではないかと思います。代表幹事にも伝えましたが、ぜひいろんな形で県も参画させていただき、議論させていただければと思っています。
- ・どのような手法でどうやっていくか、ともに議論させていただければと思っているので、もう少しお時間いただきたい。
- ・アンケートというやり方もあるが、案の4のような社会増減を見ることなどが、結果として全体像を表す指標になっていくのではないかと。有効求人倍率もそのような組み立てで考えている。
- ・ポイントは、「地域地域」と思っている。高知県の産業構造として、大きい工場が生み出した富をみんなで分配する構造ではなく、地域の農村、漁村、それぞれにあるものを生かしてどうやっていくかという道がまず基本としてあり、それに加えて一つ大きなものも生み出していくような構造と思っている。
- ・地域地域に若い人が残っていくことを目指していきたいと思っており、満足度もあるが案3や案4というものもあると思う。満足度の議論も積み重ねが必要。トータルのものとして一緒に考えさせていただきたい。

【G委員】

- ・県の経済規模は2兆2,000、3,000億ですが、生産額、経済規模そのもので言えば、労働力人口×一人当たりの生産性で結果が出てくる。それからすれば、例えば、高知県の将来人口設計というのが出てくる。

- ・人口構成はそれによってどう変わるのか、地域別や産業別にどのように変化をしていくのかが分かれば、もっと全体像が分かる。なかなか難しいことだと思うが、地域別にみているといろんな中山間があり、それがどういう形になっていくのか。各分野ごとには確かに少しは出ているが、大事なことはそこがどうなっているのか、どのような形になるのか、そのあたりがイメージとして分かれば、将来の高知県の姿、各都市の姿ということが分かる。やはり高知県が立つ基盤は恐らく、防災や健康、環境とエネルギーが問題であり、キーワードでもあるというように思う。
- ・新しく果敢に挑戦するには、その中で健康未来都市がつくれるかどうか、それをテコに環境関連産業クラスターのようなものができればよいという感じを持っている。エネルギーだとか環境技術、その背景には自然に恵まれた山と川、海があると、きちっと提言できれば非常に明るさが出てくるという思いがする。なかなか難しいことと思うが、ぜひお願いしたい。

【知事】

- ・最後に中山間のイメージなど、トータルパッケージのご説明をさせていただく。
- ・経済成長率については、実効生産年齢人口の成長率×諸般の成長率×全要素の生産性の伸びで決まっていく。生産年齢人口自体は人口ピラミッド上、今から20年ぐらいは事実上変えられず、44万が39万ぐらまで今後10年後は減っていくことは、避けようのないこと。
- ・そういう意味においても、「一人あたり」などの手法で見えてみることは必要と思う。もう一段、危機感を抱いているのが、高知県の資本ストックがマイナス成長でどんどん減っているということ。この段階を何とかしたいという思いもあり、企業投資の促進策により防災産業とか大型産業の育成も進めていく中で資本ストックを進めていく。また、加工業などに思いっきり重点を置いた、ウエイトを高めた形もある。
- ・こうした取り組みを進めるため、銀行のファイナンスも引き出せるような形で、我々としての何か触媒的な役割を果たせないかということの一つの柱として入れている。
- ・1期目の計画はどちらかというと、売りのノウハウを高めるとか、売りのネットワークをつくっていくとか、さきほどの3要素でいけば、全要素生産性をどうやって高めるか議論をしていきたいと思う。
- ・こっちからのアプローチが出来てきている中で、今度はその資本ストックに本格的なアプローチができれば、本当の成長パスに乗るような動きが出てくると思うので、生産年齢人口のマイナスを完全に克服できるかどうか、トータルの姿が大きくなって一人当たりで見ればプラスになるように持っていける方向性を目指していきたいと思っている。
- ・そこまでの予見は難しいかもしれないが、目指す大きな方向観を持ち、その中で仕事の数億円なら、高知県全体にプラスの影響を及ぼすぐらいのインパクトは持つのではないかなということを考えている。

【H委員】

- ・一つは、今までいろんなご意見をお伺いしている中でも分野によってかなり特徴に違いがあるが、最後に出さないといけないのは、県民の所得を高めることができるのか、どういうところにその目標を置くのが最後の答えじゃないかなと思う。
- ・県の施策として産業の中へ具体的に入るのは、我々民間から見るとありがたいこと、大事なことだと思う。例えば、農業分野の中の園芸農業で言うと、いろんな目標や姿はまさにその通り。現状で言うと、分野ごとに違うのは生産・供給がどんどん落ち込む中で消費需要・販売の方を高めていく、その釣り合いをどうとっていくのかだ。
- ・園芸の生産者、生産量が減りながら600億を維持しているのは、平均単価でキロ500円はずっと持続しており、生産量を増やせば600億円なり1,000億により近づいてくる。全体の計画はそういうものが組み込まれているので、これまでの意見も組み込んでいけば目標ができ、最後に生産者のところにもつながっていくように思う。
- ・もう1点は、農業のところに園芸品輸送のハンディの項があるが、これは他の分野でも交通インフラという部分で大きくかかわってくると思う。現在の園芸輸送は、生産、農協出荷場から消費市場まですべて冷凍車

で動いているし、鮮度保持という面ではネットワーク化できている。ただ、県全体を見ると農業分野でも帰ってくる荷物が少ないことが一つの悩みになっており、他分野とも大きくかかわっていると思うのでお話をさせていただいた。

【知事】

- ・前者はその通りだと思うので、分析を深めていく。後者の点は、帰り便への工夫も考えるべきということか。

【H委員】

- ・そのとおり。まず、交通インフラ、インフラ自体の面では、フェリーもなくなり、極端に言うと道路一本しかない。基盤整備は進んでいるが、特に生鮮を県外に運び出すという面では、確実に安定的な輸送力を確保していく必要がある。時間的なものも確保していくことは非常に大事になる。
- ・また、発送と帰りの点については、高知県に大きな産業がないので、例えば、京浜から帰ってくるトラックは四国や中国、九州へまず荷を積んで高知へ帰ってくるローテーションになっており、私どもだけでも数百台というトラックが毎日動いている。全体の中で見ていかないと、ワンウエイだけで考えても難しいところがあるという点も検討が必要と思う。

【副知事】

- ・水産業、農業分野でも、地産外商全体において、その物流分野をいかにしていくかは非常に難しい問題。例えば、ものによっては、首都圏や大阪の方にストックヤードを構えれば、解決する部分があるかもしれない。また、特に鮮度がものをいう、野菜、魚介類については、出発時間の変更によって築地市場に出る日数が1日早く短縮されるかもしれない。そうした時間、集荷へのチャレンジをすれば、1日少なくなるなど、24年度はまず試験的にやってみて、効果があるものを予算化もしていきたいと思っている。
- ・H委員が言われたように、帰りの便については林業関係も含めていろんな形で研究している。

【交通運輸政策担当理事】

- ・物流の手段で荷の動きを見ているが、全国でも物流の91、92%がトラック輸送。高知県もほぼ例外でなく、400数十社のトラック業者が走り回っている。荷が全体的に減っているので、各社とも生き残りで大変な状況である。
- ・これらへの対策は、トラック協会と連携しながらやっており、今言われたような課題は物流協会も思っており、実態から見ると荷は積んで行って終わりではなく、帰りのカーゴをいかに確保するのが物流事業として成り立つ生命線である。
- ・トラック業者の皆様方とお話すると、四国までは何とかなるが四国山脈を越えて高知となると、帰り便がないという状況。これを何とかするためにトラック業者の皆様方と一緒に、効率的な荷を取れるようなシステムが開発できないかなど、いろんなことを試みているがなかなか難しい。難しいのは、物流の業界だけでは対応できないので、荷主の方といかに連携するか、帰り便についても今度は県内の消費とどうマッチしていくかというような、いろんな部分が連動しているため。しかし、物流業界としても大きな課題であり、引き続いて、県も一緒になっていい方法の研究を続けているところ。

【I委員】

- ・物流の話が出たが、当社も南国市に物流の基地がある。全国各地からトラックで商品が来るが、帰る便が反対に空っぽになる。今皆様は行くのはいっぱい、帰るのは空っぽ。これをどう調整をしていくのかは、やはり情報がかぎだと思う。
- ・商流、物流を絡めた情報のキーをどこが握るのか、それをどう確保するのか、どこに受発注の仕組みをつくっていくのか、これらを調整することによって、高知のマイナスが相当解決できるというように思う。
- ・温度帯別であったり、常温のトラックであったり、さらには荷物が中山間に物が流れていく。これがものす

- ごく非効率。人がいなくなり、昔は毎日のように行っていたトラックが、2日に1回や週1回になっている。
- ・当社はコンビニエンスの物流をやっており、弁当などは朝昼晩1日3便配送で、それも1個から配送する。それで欠品率が0.01を下回るという、仕組みをつくり上げている。
 - ・だから、郵政の方から、幡多地域に行くトラックに郵便物を載せられないかという話があり、載せている。どこかがそのような調整をすれば、中山間に対してもローコストで高頻度、食品以外でも配送ができる。その中間の役割をどこが担うか、そのキーはやっぱり情報だと思う。
 - ・高知にも高知情報サービスという会社がある。情報には秘密事項があり、一民間企業がやると、情報が漏れてしまうということもあり良くないが、コンビニにしてもスーパーにしても要は共配だ。昔と違い、共配物流はどこかが情報のキーを握りながら受発注を集約し、それをスーパーなどに1つのトラックで集めに行く。そういった時代になっているので、高知県全体の物流コストを改善するため、三セクなど情報のキーをどこかが握りそれを調整していく役割が非常に大きいと思う。
 - ・もう一つ、全く話が違いますが、10年後の姿で、1,000億という明確な数字を挙げているところもあれば、●●で挙げているところもあるが、これを両方良しとするのか、どうしても数字にこだわっていくのか。ただ、今日聞いた限りでは数字を出しているところについてはビジョンが少ないというか、積み重ねの中に何とか数字があるわけで、本当に描いている数字の姿が小さい。
 - ・民間でも10年スパンの計画をつくるが、高度成長のときには数字を挙げて成功した事例が非常に多い。しかし、今の時代に高知県を取り巻く環境の変化が非常に大きいので、海外とのスパンで見えたり、法律が変わったり、国の施策が変わったりする中で、10年はなかなか描きづらい。だから、夢を追うようなロマンの目標の姿を描いていくのか、それとも数字にこだわるのか、そのあたりが非常に難しいのではないかと感じた。
 - ・林業、農業など中山間の話も聞かしていただいたが、地域別に年齢人口がどうなっているのか、60歳から70歳が何人、70歳から80歳が何人いるという数字を地域別に出してみると、若手もおらず60歳の定年を過ぎた人が地域に帰ると若手のホープと呼ばれるというような状況なので、定年退職を迎えた60歳から70歳の労働人口をどう中山間に充てていくのかということも、ぜひ考えていただきたい。

【委員長】

- ・共配については情報を駆使するという話があり、10年に関しては数字の持つ意味、数字にこだわるのか、夢を追いかけていくのか、インパクトのこととも関連するという2つ、そして、中山間に関しては集落實態調査等も踏まえた話になるので、バックデータもかなり詳細にお持ちではないかと推察するが、中山間の話はその後、少し詳しくご説明いただくことにしたいと思うので、共配のところでコメントがあればいただきたい。

【交通運輸政策担当理事】

- ・私どもも情報を非常に重視しており、例えば、県外では帰り便を専門にやっている業者さんも最近、現れている。高知県でも情報をうまくやれば、四国山脈を越えても荷がうまるのではないかという思いもあり、トラック協会と話している。
- ・また、中山間の地域へどう届けるかという問題、あるいは中山間を外れ、小出しのロットの荷主が何人かで集まり流通を一本化し、うまくいったケースもあるので、引き続いて追究してみたいと思っている。

【委員長】

- ・まだまだご意見あろうかと思うが、ここまでいただいた意見は、パブリックコメントも合わせて今後の議論に活用し、また、反映できる部分はパブコメの作業の中で反映させていただく。

(4) 重点施策（防災関連産業、新エネルギー関連産業、中山間対策）の平成24年度以降の進め方（案）
について

＜商工労働部長、林業振興・環境部長、産業振興推進部長から説明＞

【J委員】

- ・産業振興計画についてはすべてが重要だと思うが、特に防災関連産業の振興については大変重要なことだと考えており、スピード感を持って取り組んでいかなくてはならないと考えている。
- ・防災関連産業について、これから多くの需要が見込まれると思う。特に県外の取り組み、そして県外の企業も参入の期待を持ちスピード感を持って取り組んでくると思うので、決して他県からの地産外商を許さず、高知県の地産地消、地産外商に1日も早く取り組み展開していかなくては、逆効果になっては大変だ。ステップ1、ステップ2、ステップ3、4等とあるが、ステップを抜かしてでも早目にトップセールスといった形で展開していかなくては大変なことになると思う。

【知事】

- ・急いで、参入してくると思うので、急いで確立をしていきたい。ステップ1・2・3・4はステップ4から入るところもあれば1から入るところもあると思うので、1を踏まずに4になる場合もある。

【B委員】

- ・取り急ぎ3点。防災関連産業については、J委員ご指摘の通りであり、現在までのサーベイはどちらかと言うと県内事情にかかわってくるので、むしろ国全体として市場や競合の調査を踏まえてスピードアップして育成策を考えていただきたい。
- ・なかなか防災関連の製品群では産業間の連携、クラスターの組成まではとどりに着くのが難しい側面もあるので、その中で費用対効果として、どこまで応じていくのかを考えるべきと思う。
- ・再生可能エネルギーについては、再生可能エネルギーの賦存量の問題とそれに対する関連産業、つまりものづくり産業が生まれるかは全然別の話。欧米のフィールドインターレップス政策が再生可能エネルギーの導入施策としては成功しながら産業政策としては全く失敗し、中国企業に席卷されたことを踏まえ、これは県政としての支援をどこまで投入するか考えるべきかと思う。ただ、木質バイオマスに関しては正直言って林業との関係、それから中山間のエネルギーの自給自足という観点で非常にいいのかなと思っている。
- ・中山間対策については、今後の集落調査等を踏まえて、県と市町村、あるいは官民の役割分担、それから新たにできるこのセンターと担い手の問題、それから産業振興計画にいろいろ現れるパッケージの組み合わせを地域ごとに手づくりで作っていく、県と市町村でそれを作っていくようなきめ細やかな取り組みが必要になってくるというように思う。

【知事】

- ・中山間の手づくりというのはおっしゃる通りだと思うのでやっていきたい。いろんな施策を融合しないとイケないと思っており、この集落活動センターで長寿県構想のあったかふれあいセンターをやりながら救命救急のヘリポートをつくり、さらにここで特産品をつくるような集まりも行き、それを道の駅とつなぐ機能なども持たす。さらに防災組織としての機能も持つような形で取り組みが必要になってくると思う。
- ・いろんな施策の融合体が集落活動センターだと思っている。ただし、いずれにしても手づくり、オーダーメイドで1個1個作っていくことになると思うが、何とか24年度に12個できればなと思う。
- ・確かに、賦存量の問題と産業化は全然違うと思う。まず、バイオからと思う。

【委員長】

- ・まだ細かい点等さまざまなコメントをお持ちかとは思いますが、基本的な方向性に関しては、今日ご説明をいただいた内容でぜひ考えていただき、また、24年度のその予算を検討する中で微調整等が出てくるかと思うが、

その点については県庁の方にお任せをしないといけないと思う。

- ・まず、一番大事な点は、24年度からの第2期産振計画の策定方針について、この大方針をまず今日フォローアップ委員会でお認めをいただいた。本県産業の姿の全体、また各分野については数値目標、アウトカム等についていろんな視点でご意見をいただいた。この点は素案の段階で反映できるのであれば反映をしていただき、それをもとに、これからまた今後のスケジュールについて少しご説明いただき、パブリックコメントを求めています。

最後に、スケジュールについて計画推進課長からご説明いただきたい。

◆次回フォローアップ委員会までのスケジュール確認

<計画推進課長から説明>

【委員長】

- ・今後のスケジュールについてご説明をいただいた。この後、県民の皆様のご意見をお聞きするパブリックコメントを約1カ月間実施する。パブリックコメントにかける計画の素案については、事前に各委員の皆様方にお渡ししている、また、本日の資料としても配付をしているこの参考資料の1-1、並びに今日ご議論をいただいたポンチ絵のような形の絵もこれに併せてパブリックコメントの資料とする。
- ・今日はその計画の重要な部分を取り出してご議論いただいた。また、各専門部会ではそれぞれの分野の計画内容についてご審議をいただいている。3月末には第2期の計画を策定するという非常にタイトなスケジュールとなっているので、計画の素案の細かな文言の調整についてはぜひ事務局にご一任をしていただきたいと思います。

3 知事閉会挨拶

【知事】

本日は誠にありがとうございました。大変貴重な意見をいただき、大変勉強になったところでございます。今日いただきましたご意見を踏まえまして、さらに検討を深めさせていただきたいと思っております。

また、この間、いろんな形で、ここが足りない、あそこが足りないという点ございましたら、本会終了後も、また明日も明後日も明々後日もいろんな形でご指摘をいただければ幸いです。衆知を集めて、高知県の県政浮揚に向けた産業振興計画をつくってまいりたいと、思うところでございますのでぜひともよろしくお願いを申し上げたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

こちらの方からもいろんな形で、会議という形はとれなくてもいろんな形で接触させていただいて、ご意見を伺ったりご説明させていただくこととなります。

それでは、大変どうもありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いを申し上げます。